

室蘭工業大学-学報

NO.613



室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター 大樹サテライトオフィス
オープンセレモニーの様子（1ページに関連記事あり）

2020年11月号

目 次

◇ 学内の動き ◇

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター大樹サテライトオフィス オープンセレモニーを挙行……………	1
北海道若者活躍プロジェクト推進協議会を開催……………	2
地域PBL発表交流会を開催……………	3

◇ 情報・資料 ◇

令和2年度 教育設備充実経費（学長裁量経費）の採択について……………	4
------------------------------------	---

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ……………	5
奨学寄附金の受入れ……………	6
受託研究等の受入れ……………	7

◇ 人 事 ◇

人事異動……………	8
計報……………	9

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催……………	10
------------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事……………	11
学外行事……………	11

学内の動き

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター大樹サテライトオフィス オープンセレモニーを挙

令和2年10月19日（月）、大樹町歴舟地域コミュニティセンター（大樹町字芽武183）において、室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター大樹サテライトオフィスオープンセレモニーを挙

行いたしました。本サテライトオフィスは、大樹町を中心とした十勝地区におけるスペースポート構想の高まりに向けた連携の強化、3km高速走行軌道の実現に向けた取組やインターステラテクノロジズ社との共同研究の促進、教育や地域貢献の取組みとして大樹町が主催する宇宙航空イベントへの支援及び協力等をより推進させることを目的として本学の拠点を設置いたしました。

セレモニーでは、空閑良壽学長から式辞が述べられた後、酒森正人大樹町長、堀江貴文インターステラテクノロジズ株式会社ファウンダーからそれぞれ祝辞をいただき、内海政春航空宇宙機システム研究センター長から、「北海道の未来像（妄想）」と題して宇宙ビックデータで

描く近未来社会の説明がありました。また、大樹町長及び堀江氏の他、稲川貴大インターステラテクノロジズ株式会社代表取締役社長、安田清之大樹町議会議長、黒川豊大樹町副町長及び大樹町近隣行政区長を来賓としてお招きしました。

会場には、現在、同センターにおいて研究開発中の小型超音速飛行実験機「オオワシ」の「1/3スケール量産型オオワシ」及び大阪府立大学と共同開発した超小型人工衛星「ひろがり」を展示し、また、2060年の北海道の未来への貢献を描く「北海道MONOづくりビジョン2060」の動画を巨大スクリーンへ投影し、来場者はそれぞれに関心を寄せていました。

その後、本学名物巨大ジンギスカン鍋で調理した地元産の食材に舌鼓を打ちながら、大樹町を始めとした関係機関と今後の連携等について意見交換を行い、盛会のうちに終わることができました。



内海センター長の説明



懇親会の様子

北海道若者活躍プロジェクト推進協議会を開催

令和2年10月9日（金）に、北海道大学学術交流会館において、北海道若者活躍プロジェクト推進協議会を開催しました。

「北海道若者活躍プロジェクト」は、若者の地域就職を支援する文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を引き継ぐ形で、北海道がまとめ役、本学が事務局となって令和2年4月に発足しました。

本推進協議会は、同プロジェクト会員約150機関のうち産学官金の主要な関係者で構成され、当日は22機関が出席しました。

会議では、「若者に選ばれる企業に向けての推進方策」と題して、本学（那須教授）、北海道経済連合会及び北海道から説明があり、今後はCOC+で形成した10拠点が中心となって、各推進方策を検討・実施していくことが了承されました。

その後、各拠点の活動状況について大学・高専、自治体から報告がありました。各拠点は、地域の企業や産業団体、振興局及び市町村等と連携した体制を構築し、雇用創出・若者定着を推進するために、各地域の特色を活かした事業を検討・実施していくことになります。

最後に、本推進協議会の下に設置している地域教育ワーキンググループの検討状況について、座長である本学の永野副学長から報告がありました。今後、同ワーキンググループでは、道内企業への就職を増加させるために、COC+で構築した道内就職優遇制度の内容を検討することになります。



就職に対する学生のアンケート結果を報告する那須教授

地域PBL発表交流会を開催

令和2年10月18日（日）に、地域PBL発表交流会を開催しました。

本会は、「学生と企業がミライの北海道を考える地域課題解決プロジェクト」と題して、北海道若者活躍プロジェクトに参加する大学・高専の学生が地域課題の解決を目指し考案したアイデアや実際の取組み（地域PBL）について発表し意見を交わすもので、オンライン会議システムにより開催しました。

当日は、学生、企業、地方自治体から35機関、100名の方々にご参加いただきました。

第1部では、大学・高専8機関（10テーマ）の学生による地域PBLの取組みを5分間×10テーマの発表が行われ、学生自身が考案したアイデアをスライドや動画により工夫したプレゼンテーションが展開されました。

第2部では、プレゼンテーションを聴講した参加者が、オンライン上に設けた10個のブレイクアウトルームに分かれ、各テーマの発表学生との意見交換を行いました。

意見交換では、参加者からの質問に対して、発表者の学生がwebページを共有して説明する場面もあり、オンライン会議システムを有効に活用した情報交換を行っていました。また、企業から「想定している受益者」について質問があり、アイデアの目的や対象を明確に回答している学生の姿が印象的でした。

意見交換終了後は表彰式があり、旭川工業高等専門学校のアイデア「ノンストップで5カ月動作！水耕栽培用IoT排液計の製作と実証実験」が最優秀賞に選ばれ、発表学生に対して、本学の空閑学長からオンライン上で表彰と記念品の贈呈がありました。



意見交換の様子



記念品を贈呈する空閑学長

情報・資料

令和2年度 教育設備充実経費（学長裁量経費）の採択について

本経費は、学部教育上で必要な設備等を充実するための経費であり、新規に機器・装置・設備等の購入または更新を支援するための経費です。

これにより、教育環境を充実し、十分な改善効果を得て、教育のさらなる活性化を目的としております。理工学部各コース等からの申請書による審査の結果、次のとおり採択されました。

所 属	設 備 名	採択金額 (千円)
創造工学科		
建築土木工学コース	共鳴非破壊試験装置	1,234
機械ロボット工学コース	卓上小型4軸ロボット	1,900
航空宇宙工学コース	航空宇宙工学実験実験装置	884
電気電子工学コース	電気電子工学実験設備	1,986
システム理化学科		
物理物質システムコース	ICTを用いた自動計測実習システム	1,850
化学生物システムコース	赤外線分光光度計	1,496
理工学人材育成本部		
理工学基礎教育センター	英語多読書オンライン閲覧システム	512
合 計（7件）		9,862

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 青柳 学	中小企業	1,100
もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業	210
もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業	2,000
もの創造系領域 教授 辻 寧 英	大企業	2,000
もの創造系領域 教授 濱 幸 雄	大企業	500
しくみ解明系領域 教授 佐伯 功	大企業	1,430
しくみ解明系領域 准教授 渡 邊 真 也	大企業	650
合 計 (7件)		7,890

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
公益社団法人日本鑄造工学会	工 学 研 究 助 成	1,000
公益社団法人日本鑄造工学会	工 学 研 究 助 成	500
公益社団法人日本鑄造工学会	工 学 研 究 助 成	200
公益社団法人日本鑄造工学会	工 学 研 究 助 成	300
個人寄附者 (1件)	工 学 研 究 助 成	150
国立大学法人北海道大学	工 学 研 究 助 成	600
新東工業株式会社	工 学 研 究 助 成	2,000
株式会社ドーコン	工 学 研 究 助 成	300
医療法人王子総合病院	工 学 研 究 助 成	200
室蘭工業大学学生後援会	室蘭工業大学と学生父母との連携及び学生支援のための助成	2,100
信越化学工業株式会社	工 学 研 究 助 成	500
合 計 (11件)		7,850

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 今井良二	その他	500
もの創造系領域 教授 内海政春	その他	500
もの創造系領域 准教授 溝端一秀	その他	1,000
もの創造系領域 助教 中田大将	その他	1,000
しくみ解明系領域 教授 塩谷浩之	大企業	988
合計(5件)		3,988

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和2年10月31日	〈雇用期間満了〉	松 井 奈生子	大学院工学研究科事務補佐員
令和2年11月1日	〈採 用〉 クリエイティブコラボレーションセンター 博士研究員	BAAR STEFAN	
令和2年11月1日	〈雇用期間更新〉	永 田 鈴 奈	入試戦略課事務補佐員

訃 報

助教

鈴木 淳 (52歳)

本学助教の鈴木 淳氏は、令和2年10月14日に急逝されました。

ここに、生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和42年12月25日に北海道名寄市に生まれ、同61年4月に室蘭工業大学工学部に入學された後、平成4年3月に同大学大学院工学研究科博士前期課程を修了されました。その後、同4年4月に室蘭工業大学助手として着任され、同19年4月に助教となられ、令和2年10月に逝去されるまでの28年間の長きにわたり教育研究に情熱を傾けるとともに、本学の発展のために多大な貢献をされました。

教育面においては、平成3年度室蘭工業大学機械システム工学専攻修了後、直ちに本学助手に採用され、主として機械システム工学実験、計算機援用工学、機械工学実験（夜間主）などの授業を担当されました。修士論文は「周期加熱冷却を受ける多孔質中の熱および物質移動に関する研究」で、当時の齊藤図教授、岸浪紘機助教授の下、学生の指導や研究に打ち込まれていました。齊藤先生の教育方針は、温かい中にも厳しいしつけがあったと聞いています。鈴木先生もその薫陶を受けられ、助手時代は毎日ネクタイと背広姿で大学に来られ、学生の指導も厳しく接していました。研究分野は「伝熱工学」で、特に「泡沫流体」の研究が知られ、その魅力などを機関誌に紹介されていました。それによると「空冷や水冷など単相の冷却では、その制御可能な冷却速度領域がほぼ限定されてしまう。泡沫は気相と液相の2相混合体であり、それぞれの特徴を併せ持つことから、空冷から水冷までの幅広い冷却速度域を網羅しており、いろんな冷却形態を自由に制御できる可能性を有している」と書かれてありました。「泡沫なんか、単なる泡じゃないか」と私などは思ってしまいますが、この文面を見て、以前より「ものの本質を瞬時に見抜く力」がすごい人だと思っていましたが、改めてそれを感じた次第です。また泡沫流体のいろんな実験を通して、「泡沫流体を用いて高温物体の冷却をおこなう場合には、単相の液体のように、冷却時に発生する沸騰のバーンアウトを含む遷移過程の不安定な現象を伴わず、安定した冷却ができることが分かって来た。」ともさりげなく書かれていて、学識の豊かさと奥深さをここからも読みとることが出来ます。教育に関しては「よく学生はやる前から『そんなことできる訳ない』などと必要以上に思いこみ、試してみる前から簡単に『無理です』と断ることがある。やってもみない内から無理だと言うなよ。いろんな工夫をしてみようよ」と、積極的に働きかけていました。

体調を崩されてからは、学生への指導も少しトーンダウンされた気もしますが、それでもフレッシュマンセミナーの授業などでは、「このような実習での遅刻や欠席はまわりの人に迷惑がかかる。レポートも書けなくなる。何が致命的になるか、1年生の内から考える力を付けるのもフレッシュマンセミナーの隠れた大事な目的だ」と、よく言われていました。

深い悲しみだけでなく、大事な仲間を失った喪失感、脱力感が我々を襲っています。職場の同室だった佐々木先生も、鈴木先生の健康には人一倍心配してくれていました。それだけに本当に残念な結果になってしまいました。

心からご冥福をお祈りするばかりです。



学内会議

学内各種委員会等の開催

< 9月25日～10月24日 >

開催日時 令和2年9月29日（火）
会議名 第12回役員会

開催日時 令和2年10月8日（木）
会議名 第6回教育研究評議会

開催日時 令和2年10月13日（火）
会議名 第4回企画戦略会議

開催日時 令和2年10月13日（火）
会議名 第13回役員会

学内行事

○学内行事

- 9月28日(月) 全学一斉構内クリーン作戦
- 9月28日(月) 令和2年度第1回FD講演会Freedom from***** - withコロナ時代におけるアクティブラーニングの在り方
- 9月28日(月) 令和2年度第2回科学研究費助成事業に係る説明会
- 9月29日(火) 室蘭工業大学学生後援会退職役員感謝状贈呈式
- 10月1日(木) 辞令交付
- 10月2日(金) 令和2年度10月期入学宣誓式
- 10月8日(木) 第1回遠隔授業フォーラム
- 10月14日(水) 大学執行部と同窓会との定例懇談会
- 10月17日(土) 令和3年度特別選抜入試(総合型選抜I・II, 帰国子女選抜, 企業推薦型選抜)
- 10月18日(日) 2020年度編入学一般入試(第2次募集)合格発表

学外行事

- 9月25日(金) 国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議(第8回)(オンライン)
- 9月25日(金) 第17回「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」(オンライン)
- 10月1日(木) 令和元年度・第3期中期目標期間(4年目終了時)評価ヒアリング(オンライン)
- 10月6日(火) 第2回ランキングマネジメント研究会(オンライン)
- 10月7日(水) 授業目的公衆送信補償金制度説明会(オンライン)
- 10月9日(金) 令和2年度北海道若者活躍プロジェクト推進協議会(札幌)
- 10月9日(金) 文部科学省情報セキュリティ監査担当者研修1日目(第3回)(オンライン)
- 10月12日(月) 文部科学省情報セキュリティ監査担当者研修2日目(第3回)(東京)
- 10月18日(日) 「学生」×「企業」=∞2020~ミライの北海道を考える地域課題解決プロジェクト発表会~(オンライン)
- 10月19日(月) 室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター大樹サテライトオフィスオープンセレモニー及び懇談会(大樹町)
- 10月19日(月) 北海道経済連合会Society5.0ワーキング(札幌)
- 10月20日(火) 2020年度国立大学法人等担当理事等連絡会議【コロナ禍を期にした新たな働き方改革】(オンライン)
- 10月20日(火) 国立大学法人等の財務等に関する説明会(オンライン)
- 10月23日(金) NEW EDUCATION EXPO 2020(オンライン)
- 10月23日(金) 国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議(第9回)(オンライン)

編集後記

◆ 教職員の皆様からの随想，提言等の御寄稿，あるいは学報への御意見，御希望，また，日頃感じていることなど多数お寄せくださるようお待ちしております。

(リンコム：総務広報課総務広報係，E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

- 編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014
- 印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308